

授業の考察①<高等学校> 「怒りについて学ぼう」

考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、高等学校3時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの2点を視点に考察します。

授業の考察の視点

- | |
|------------------|
| Ⅰ 本時のねらいを達成できたか |
| Ⅱ 次時につながる内容であったか |

なお、考察のために抽出した生徒の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

Ⅰ 本時のねらいを達成できたかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

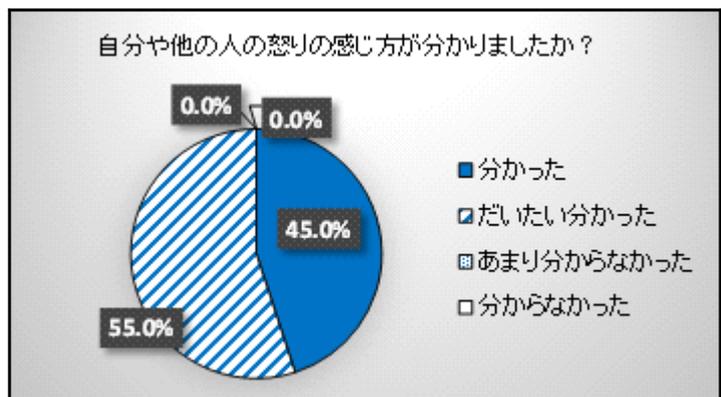
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「自分や他の人の怒りの感じ方が分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「怒りの感じ方は人それぞれ違うことが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「怒りの仕組みが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「怒りのコントロールの仕方が分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること

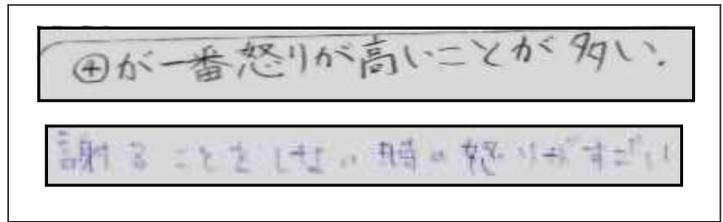
1 怒りの感じ方の理解について

○振り返りシートの「自分や他の人の怒りの感じ方が分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は100%で、全ての生徒が自分や他の人の怒りの感じ方についての理解を深めることができました（資料1）。



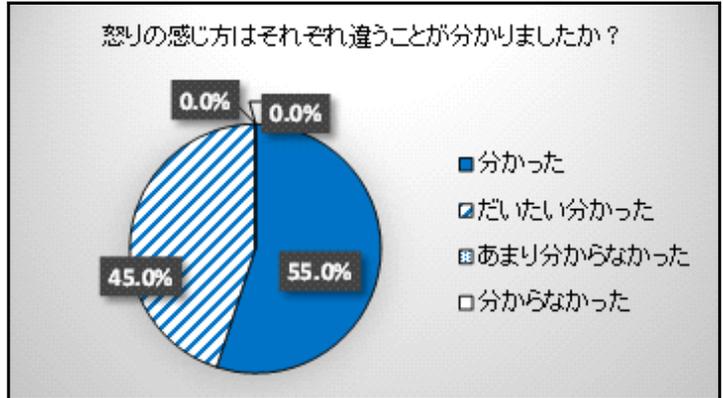
資料1 自他の怒りの感じ方の理解についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○生徒は、記入した「怒りの温度計」を友達と比較し、自分や他の人の怒りの感じ方が同じ場面や状況について考えることができました（資料2）。



資料2 自他の怒りの感じ方の理解についての生徒の感想(振り返りシートより)

○振り返りシートの「怒りの感じ方はそれぞれ違うことが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は100%で、全ての生徒が怒りの感じ方はそれぞれ違うことについての理解を深めることができました（資料3）。



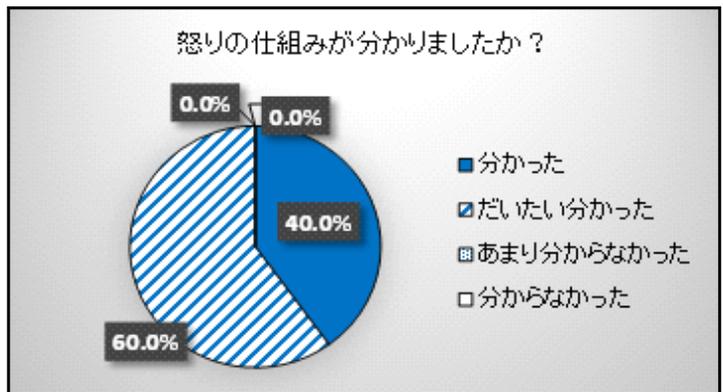
資料3 怒りの感じ方はそれぞれ違うことについてのアンケート結果(振り返りシートより)

2 怒りの仕組みの理解について

○振り返りシートの「怒りの仕組みが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は100%で、全ての生徒が怒りの仕組みについての理解を深めることができました（資料4）。

○怒りの仕組みの説明で、スライドで怒りの大きさを風船を用いて視覚的に表現したことで、生徒は熱心にスライドを見て、ワークシートに取り組んでいました。

◇怒りの仕組みのスライドについては、スライドの教師用シナリオの量が多く、教師の負担が大きいため、教師用シナリオの音声のスライドに挿入することとしました。

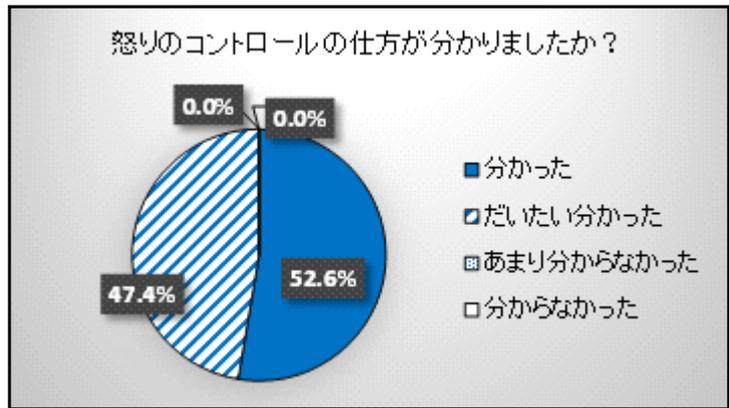


資料4 怒りの仕組みの理解についてのアンケート結果(振り返りシートより)

3 怒りへの対処法の理解について

○振り返りシートの「怒りのコントロールの仕方が分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は100%で、全ての生徒が怒りへの対処法についての理解を深めることができました（資料5）。

◇怒りへの対処法のうちリフレーミングについては、生徒の反応も良く熱心に取り組んでいたことから、練習する場面を追加することとしました。



資料5 怒りのコントロールの仕方の理解についてのアンケート結果(振り返りシートより)

以上のことから、生徒は怒りの感じ方や怒りの仕組み、怒りへの対処法についての理解を深めており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

II 次時につながる内容であったかについての考察

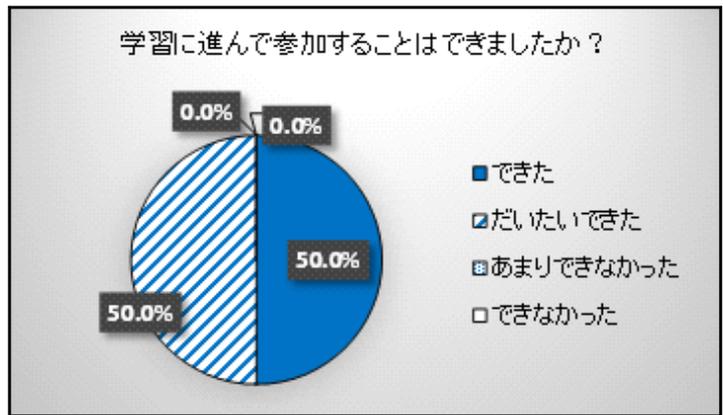
○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

次時につながる内容であったかを、Iの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 次時につながる内容であったかを判断する目安

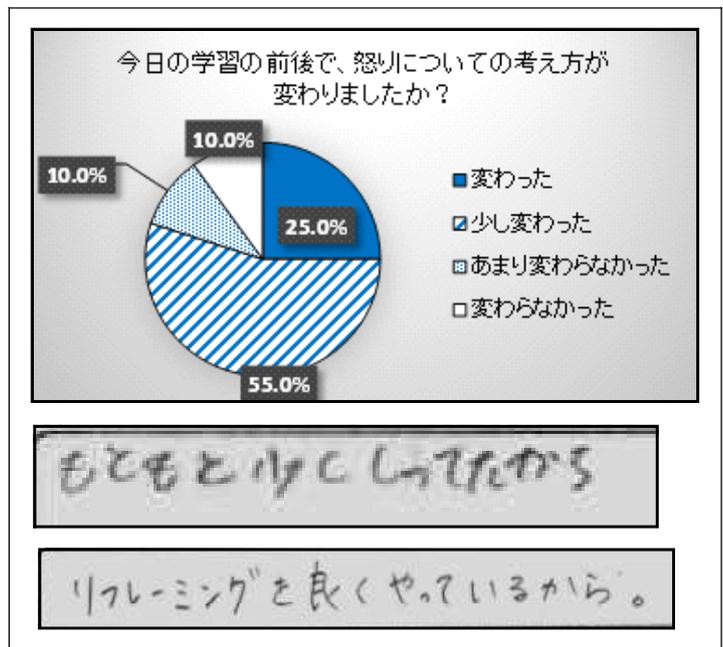
・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日の学習の前後で、怒りについての考え方が変わりましたか」で、「変わった」「少し変わった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

○振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は100%で、全ての生徒が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料6）。



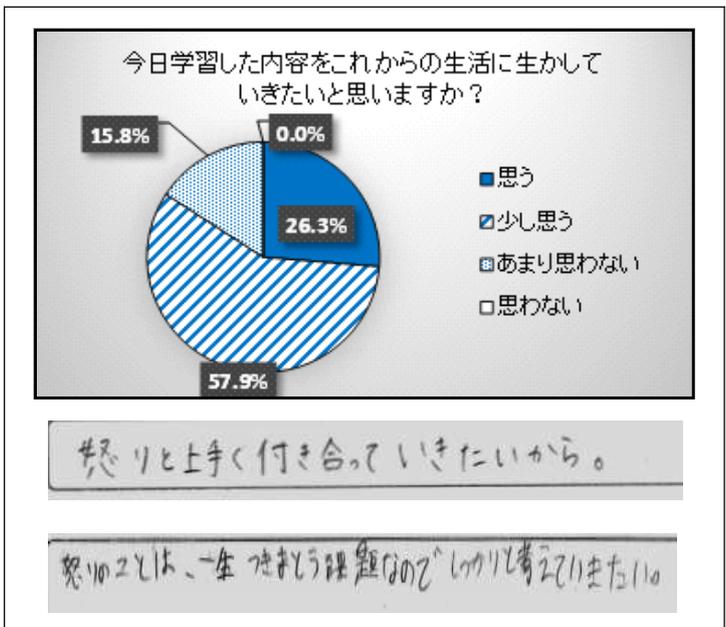
資料6 学習への参加状況についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○振り返りシートの「今日の学習の前後で、怒りについての理解や考え方が変わりましたか」の質問に対して「変わった」「少し変わった」と回答した生徒の合計は80.0%で、ほとんどの生徒が学習の前後で怒りについての考え方が変わったことが分かりました。一方、「あまり変わらなかった」「変わらなかった」と回答した生徒の記述には、変わらなかった理由として、怒りについて既に知っていた、あるいは怒りへの対処法を既に実践していたとあり、学習した内容が再確認の意味をもつ生徒もいることが分かりました（資料7）。



資料7 学習の前後で、怒りについての考え方が変わったかについてのアンケート結果と生徒の感想(振り返りシートより)

○振り返りシートの「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した生徒の合計は84.2%で、ほとんどの生徒が学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思っていることが分かりました（資料8）。一方、「あまり思わない」と回答した生徒も15.8%いました。今回学習した怒りの仕組みを既に知っていたり、怒りへの対処法を既に実践したりしていた生徒もいたため（前頁資料7）、今回学習した内容を改めて今後に生かしたいとは思わなかったのではないかと考えます。また、高等学校においては、活動プログラムの「怒りについて知る」の学習内容を1時間で実施しており、学習内容が多すぎたために今後の活用に対して前向きに捉えることができなかつた生徒もいたことが考えられます。そこで、怒りへの対処法については、生徒が自分なりに実践している対処法も取り上げながら学習内容をより生徒の実態に即したものにして、実際の場面で実践することができるように、授業後も継続して取り扱っていく必要があると考えます。



資料8 学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいかについてのアンケート結果と生徒の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、生徒が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。